

事後評価シート

調査研究課題名	社会資本整備等における資金調達に関する研究
担当者	長野主任研究官、廣瀬研究官
当初目標と目標達成度	<p>本研究は、平成 14～15 年度の 2 カ年にわたるもので、平成 14 年度には、PFI 事業等の民間資金を活用した事例の調査及びその整理を中心に行い、あわせて、欧米等における資金調達の仕組み等の調査を行うこととしている。</p> <p>平成 14 年度は、国内の PFI 事業の調査研究と、プロジェクトファイナンスの考え方の整理、PFI を推進するための課題の整理を取りまとめた。欧米等における資金調達の仕組みに等しい調査は、PFI の取組みが進んでいるイギリスでの、PFI 事業のリファイナンスについて分析を行った。以上のことから、相応に目標は達成したものと考えられる。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>社会資本の整備においては、財政状況が大きな制約となることから、民間資金を幅広く集めて社会資本整備に投入する仕組みを導入することは、今後の円滑な資金調達に向けて必要性が高い。本研究では、この観点から、公共サービスの提供に民間資金を活用する手法である PFI を取上げ、その進展の状況、ファイナンスの考え方、今後の課題等を整理、検討し、次年度の研究に繋げることにした。以上の観点から初年度の調査研究内容は妥当であったと考えられる。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>本研究では、文献調査、ヒアリング（地方自治体、金融機関等）、セミナー等での情報収集を行い、PFI に関連する公共、民間事業者、金融機関等の各々の視点、課題等を伺うことができた。また、福井大学手塚助教授に執筆を依頼し、PFI の今後の検討課題を、イギリスの事例をもとに分析することができた。よって調査研究の仕組みは妥当であったと考えられる。</p>
成果と活用（予定）	<p>研究の結果、PFI 事業を検討する際の視点、資金調達（プロジェクトファイナンス）に関する留意点、官民の対話の充実といった課題等を明らかにすることができ、一定の成果は得たと考えられる。なお本研究報告は、関係部局への配布、HP 上での公表を予定している。</p>
その他	
意見	

